

会議録（要点記録）

会議名称	令和4年度 第1回小金井市精神保健福祉連絡協議会		
開催日時	令和4年7月28日（木）13:00～15:00		
開催場所	市役所本庁舎 第1会議室		
出席者等	<p>委員：小高会長、牧野副会長、鴻丸委員（欠席）、中村委員、坂上委員、執行委員、小椋委員（欠席）、鈴木委員、佐々木委員、東郷委員、杉山委員、藤原委員、中谷委員</p> <p>事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主事</p>		
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 委員及び事務局職員の紹介</p> <p>3 議題</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 今年度の進め方について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) アンケートの実施結果について</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 今年度の目標設定について（対象者の抽出）</p> <p style="margin-left: 20px;">(4) 事例検討</p> <p style="margin-left: 40px;">ア 令和3年度検討事例の報告</p> <p style="margin-left: 40px;">イ 事例紹介</p> <p style="margin-left: 40px;">ウ 課題の抽出及び検討</p> <p style="margin-left: 20px;">(5) その他</p> <p>4 次回の開催日について</p> <p>5 閉会</p>		
会議結果	<p>1 開会</p> <p>2 委員及び事務局職員の紹介</p> <p>・各出席者自己紹介</p> <p>3 議題</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 今年度の進め方について</p> <p>・本協議会のスケジュールは、年3回実施。第1回目で長期入院者等の地域移行者数について目標設定、第2回目で進捗確認、第3回目で目標に対する評価を行うという形にする。</p> <p>・昨年度は、立ち上げの年ということで、地域移行の対象者を抽出するためのアンケート調査についての協議と、対応中のケースを題材とした事例検討を行った。</p> <p>・具体的な今年度の流れについては、本日の第1回目でアンケートの結果をもとに、目標とする対象者の抽出を行う。</p> <p>・11月に開催予定の第2回目で、抽出した対象者への支援の途中経過についての報告を行い、それを題材として、課題の整理や検討を行う。</p>		

・最後に、令和5年2月に開催予定の第3回目で、対象者のうち何名が地域生活に移行することができたかという形で、目標に対する評価を行う予定とする。

・以上のとおり行うことでよいか。

(出席者より質問、意見なし)

(2) アンケートの実施結果について

・令和4月1日から6月20日までの期間で、医療機関宛てに、協力依頼のアンケートを実施。多摩地域の40件の医療機関に送付し、回答があったのは31件。

・協力いただける29医療機関に、入院患者さんの状況を調査するためのアンケート票を6月1日に計68人分送付し、7件の医療機関から、計14人分の回答を得た。

・資料として2つ用意した。

・「アンケート集計結果」は設問ごとの回答数をまとめたもの、「対象者概要」は縦に設問要旨を、横列に対象者の方の回答を記載した。また、最下部に設問項目ごとの回答数を記載している。

・結果をもとに担当が分析した結果についてお伝えする。

・福祉サービスの利用に重要となる障害者手帳の取得状況について、14名中10名が手帳を所持していない。入院には手帳の有無の影響が少ないため特に精神保健福祉手帳の更新などを行わなくなるなどの影響が出ている可能性があると考ええる。

・長期入院者であるため、障害年金についても対象となる可能性が高いと推測できそうだが、実際はほとんどの方が受給していない。

・以上を前提とし回答者が退院に際し重要と考えている内容として、14名中10名が「退院後の住むところがあること」を挙げており、居所について重視している。これは病気の治癒及び経済面と回答した人数がそれぞれ5名であることから明らかである。

・入院理由の設問も「居所がない」との回答が最多となっており、「居所の整備」が退院のキーポイントになることがわかる。

・合わせて居所の整備の次に病気の治癒及び経済面での課題もポイントとして考えられる。

・実際のところ退院後すぐに就労ということは現実的ではなく、また、家族についても先のとおり支援の望みが薄いとなると、障害年金と福祉手当の受給で生活費を賄うと考えられる。

・すでに伝えたとおり年金を受給していない方が大半であることを考えると、生活保護施策などとの連携も非常に重要となってくることがわかる。

・一人ひとりの回答内容の詳細は「対象者概要」を参照されたい。

(説明について出席者より質問、意見なし)

(3) 今年度の目標設定について

- ・令和3年3月に策定した、第6期小金井市障害福祉計画では、令和4年度の地域移行支援の利用者数について、2人を目標としている。
- ・これに従い、今回アンケートを行った長期入院者のうち、2人以上の方が地域生活に移行できるよう、支援を行っていきたいと考えている。
- ・本日は、アンケートの回答を参考に、退院を促進する対象者の抽出を行う。
- ・なお、2人という数値目標を掲げているが、これは、地域生活に移行する方の人数であり、退院促進を実施する人数ではない。
- ・退院促進を実施した方が必ずしも地域生活に移行できるとは限らないこと、また、来年以降も継続して退院促進を実施していくことから、本日、対象者を抽出するにあたっては、人数は絞らず、対象者となり得る方をすべて抽出していただきたい。
- （出席者より質問、意見なし）
- ・条件の抽出方法について、例えば「問3（現在、入院している理由は何ですか？）に対し、不安と回答している場合などは、何が不安なのか、不安を取り除く方法はないかなど、必要な支援をすれば退院できるのではないか。」など、方法について意見を伺いたい。
- （各委員意見）
- ・なかなか難しいと考える。調査票の対象者の中で老人ホームへの入居希望とあるが、施設入所も地域移行をみなすのか。
⇒施設入所は地域移行と考えない。グループホームなど障害福祉サービスを利用し退院した方を地域移行とみなす。
- ・今の発言より問2「本人の希望」がポイントになることも考えられる。そのため問3「入院理由」、問5「退院できる条件」が明確に描かれている方がいいのではないかと。
- ・問3-7「どうしたらいいかわからない」と書いた方について、病院には支援プログラムが存在する。支援次第で今後の生活のイメージができることで退院に近づくことがあるのではないかと考える。
- ・優先順位という考え方も失礼だが、決められた方でも医学的に見て難しい方についてはやはり困難なので別の方に、となると考える。
- ・問3-7、問5に注目し合わせてみて両方とも回答しているかを優先する考えもある。
- ・これだけの指標だけではないが、主治医、本人の意向を踏まえて物理的に可能と考えられるのは、問3-2「住むところがないから」という方が7名、問3-3「生活するためのお金がないから」という方が3名、この方々はグループホームを確保する、年金、生活保護で生活を確保すれば生活可能ではないかと考える。
- ・40歳代の精神障がいのある方と高齢の両親が同居している家庭の支援に関わっている。住む場所はあるが本人と両親の意見の食い違い

で父が本人に暴力を振るってしまった事例があった。それにより本人も逆上し両親に暴力を振るい、最終的に障害、高齢者虐待両方に該当するケースがあった。またアンケート調査より退院したい人のほとんどが外泊していない。以上を考えるといきなり自宅、独居は困難であり、グループホームなどを挟む必要があると考える。

・グループホームに入りたい人がいる一方で、入院理由がわかっていない人については病気と向き合いつつ地域で生活していきたい人が上位となってくるのではないかと。

⇒そうすると問2-8「一人暮らしをしたい。」と回答している人を重視するということか。

⇒いきなり一人暮らしというのは現実的でないため、グループホームを挟んでいくことが現実的ではないかと。

⇒とすると、問10「外泊の有無」で外泊をしている1名を優先するなどの方に注目するといい。ただし、家族が反対している場合は難しいかも。

・現在小金井市内の精神障害のある方用のグループホームはどのくらいあるのか。外泊の練習ができる事業所はあるか。

⇒市内7か所、定員28名である。そのうちどれくらいが試泊できるかは不明である。

・外泊について指摘があったが、病院では新型コロナウイルスの関係でここ2~3年は外泊、外出をさせていないのが現状であり、あまり参考にならないのではないかと。

・消去法で選ぶのか。

⇒一度優先順位をつけて、高い順位からアプローチを行い、対応が難しいケースの場合は、次のケースに当たるなどの対応になる。

・問3-5「主治医から退院の許可が下りてないから」については外したほうがいい。問3-2「住むところがない」方についても調整が必要となる。

・支援をしていると家族の意向が大事だと思う。問11「面会、連絡の有無」も重視したほうが良い。

・問3-1「病気がよくなっていないから」と回答した方については病識があるとも考えられるから注目してもいいのではないかと。

・極論全員にチャンスがあるが、市のプロジェクトとしてトリアージするしかないのかと考える。そのなかで具体的には整理番号13-2、13-3、31-1の方が主治医の許可もありそうなので良いのではないかと。13-3の方はアルコール依存であるため自助グループも支援があれば可能性があるし、13-2の方は知的障害であることから、本人の特性を理解し支援すれば落ち着く可能性もある。この3名は若いこともあり比較的将来性があると考え。若い人は支援しないと10年、20年このままになる可能性もある。逆に年齢が70歳代以上

の方は高齢福祉所管課との連携も必要であることから煩雑になりやすいのではないか。家族を巻き込む、社会福祉協議会に協力を依頼する、成年後見制度を活用するなど必要だと考える。市のプロジェクトでやるのであればある程度厳しく選ぶべきであると考え。

・今までで退院にかかわってきた方で3年間かかった方がいた。その方は調子が悪いと電車で飛び込む傾向がある方だった。薬などもいろいろ提案したが、本人、母親とも拒否され、あれもこれも嫌だ、と言われた。そのような中でも本人の意向をくみつつ一方で現実を突きつけられて何とかやっている。

・13-2の方は入院回数が多い。同じことを繰り返していると考えられ、それには理由があるはず。また、入院しても知的障害の症状は改善することはない。27歳ということもあり、家族が意見を言っている可能性もある。このようなケースは再度アセスメントを行い、新しい課題点があるか確認したほうが良い。その課題について対応したほうが良いと考える。

・まとめると60歳未満の若年者を優先させること、問3、問5の部分、病識があるということ重視すること、問3-2、3については調整次第で支援可能であること、問3-5は外すということ、問3の選択肢7についてはいろいろなトレーニングとすることで退院のイメージがわくのではないかと、ということ、問11の連絡のあった6名について注目すること、以上これから対象を絞っていくことでよいか。

⇒人数を絞る趣旨はない。今会議で優先順位を決めていただきたい。ただし、2名は地域移行を目指すので少なくとも2名以上選定いただきたい。

・回答内容を集計したところ整理番号13-2、31-1、6-1、13-3は優先順位が高い。年齢、住む場所、退院後の生活が不安と答えた9-1、12-1、12-2は優先順位が低いという考え方になる。なお、整理番号不明の方も年齢などがわかることで優先順位が上がるかも。

・退院させることが目的ではなく、地域移行させることが目的だと思うため、とりあえず候補の14名全員を退院させてそのうち1年たって4名が残っていた、という形で行うべきと考える。それには受け皿となるグループホームなどの地域資源の確保が大切であると考え。

・アプローチの仕方、何をもって成功とするかなど、今の段階で決まっていることはあるか。

⇒目的は地域移行につなげることで、移行に足りないものが何かを確認することにある。何をもって地域移行成功とするのかという定義的なものはない。

・意向はわかったが、失敗してもいいと思う。取り組むこと自体が重要だ。地域移行に至るまでいろいろなケースがある。やってみないと

わからない。市、行政が動いてくれたという事実を残し将来的に積み上がっていくことが大事だ。簡単にはいかない。また地域資源といったハード面も足りない。失敗したとしても次に生かせるようにすることが必要だ。他市でも取り組んでいるが失敗している。また、病院は「退院してほしい。」とは言わない。最初からうまくいくことはない。

- ・ 検討の結果、支援対象者を選定したら情報収集を徹底したほうが良い。

- ・ 退院したら1月もたなかった場合、ハード面が足りなかったなど課題が出てくる。それで課題だとわかることもある。

- ・ 以上で検討を終了する。今回選定した方について再度確認の上対応していくがよろしいか。

(出席者より意見なし)

- ・ 第2回協議会で対象の方の進捗状況について報告する。

(4) 事例検討

ア 令和3年度検討事例の報告

- ・ 令和3年度検討事例について、その後の状況を簡単に報告する。特に、令和3年度に検討したBさんについて、先日本人にヒアリングを行った。

○Bさんについて

- ・ 市外の精神科病院に入院していたケース。入院前に住んでいた家には退院できなくなってしまったため、入院期間は7年に及んだ。現在は、病院の近くにあるグループホームに入り、日曜日以外は、病院のデイケアと訪問看護、通院で支援している。

- ・ 退院までの話を伺った。退院について担当の先生から話が出た時は、「強制退院かと思った、退院と言われてもわからなかった。退院したくなかった。」とのこと。退院できる自信は全くなかったようで、時に精神的に不安定になることもあったが、病院のワーカーによると、初めて体験宿泊を終えて病院に戻った時に「意外と良さそう」とポジティブな言葉が出たとのこと。

- ・ しかし、「退院までは不安で仕方なかった」とのことで、毎日ようにナースステーションで不安を訴えていた。その後グループホームに入居して2日ほどでグループホームの世話人さんに相談できた。今も何かあれば世話人や病院のワーカー、デイケアスタッフに相談できている。

- ・ 今は、「退院して良かった、自由で良い。」とのこと。今後は体調を崩さず入院せずに生活していきたいと話していた。

○Aさんについて

- ・ グループホームに退院されて、通院しており再入院はしていない。

- ・ 報告内容について何か意見はあるか。

(出席者より質問、意見なし)

	<p>イ 事例紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>ウ 課題の抽出及び検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席委員より配布資料の基づいた説明あり。 <p>4 次回の開催日について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の開催は、令和4年11月を予定。後日、調整する。 ・木曜日の午後に予定しているが良いか。 <p>(出席者より質問、意見なし)</p> <p>5 閉会</p>
提出資料	<p>資料1 小金井市精神保健福祉連絡協議会委員名簿</p> <p>資料2 アンケート集計結果</p> <p>資料3 対象者概要</p> <p>資料その他 出席委員からの配布資料</p>